

CISMOR Young Scholars' Workshop
CISMOR 一神教学際研究会 2021-2

2021年11月27日(土) 10:30~14:20
オンラインワークショップ (ZOOM platform)

プログラム

10:30-10:35 開会の挨拶 - アダ タガー・コヘン

同志社大学神学研究科教授、一神教学際研究センター センター長

【第一部】司会：阿部泰士 一神教学際研究センター特別研究員、

- 日本語発表 -

10:35-11:05

神田 朋美 同志社大学神学研究科博士後期課程

「第二次世界大戦後の同志社の教育復興 - 占領軍関連組織とのつながりから -」

コメンテーター 中村信博 先生

11:05-11:35

山中弘次 同志社大学神学研究科博士後期課程

「15年戦争下の日本のバプテスト教会の葛藤 - 宗教団体法への対応」

コメンテーター 塩野和夫先生

11:35-12:05

本間優太 同志社大学神学研究科博士課程後期課程

「第二神殿時代のアダムとパウロのアダム(1) - 第一エノク書とヨベル書 -」

コメンテーター 村山盛葦先生

休憩: 12:05-13:15 (70分)

【第二部】司会：北村 徹 一神教学際研究センター特別研究員、

13:15-13:45

鍵谷秀之 同志社大学神学研究科博士後期課程 (9月修了)

「直喩としてのたとえ話に関する一考察」

コメンテーター 加藤哲平先生

- 英語発表 -

13:45-14:15

Asmao Diallo グローバル・スタディーズ研究科博士課程

“COVID-19 and Women in Mali: Evaluating the Impacts of COVID-19 on Women's Income Generating Activities and Social Relations with their Partners”

コメンテーター 西川由紀子先生 (NISHIKAWA Yukiko)

14:15-14:20 - 閉会の挨拶 アダ タガー・コヘン

同志社大学神学研究科教授、一神教学際研究センター センター長

コメンテーター

中村 信博 同志社女子大学学芸学部メディア創造学科・特任教授
塩野 和夫 西南学院大学国際文化学部・国際文化学科・教授
村山 盛葦 同志社大学神学研究科・教授、CISMOR リサーチフェロー
加藤 哲平 追手門学院大学基盤教育機構・常勤講師、CISMOR リサーチフェロー
西川 由紀子 同志社大学グローバル・スタディーズ研究科・教授

*メインコメンテーターを指名させていただいておりますが、他の方の発表へのコメントも歓迎いたします。

要 旨

第1部

神田 朋美

本発表では、占領期（1945-52年）の同志社総長であった牧野虎次と湯浅八郎の対応や活動に着目することにより、どのように同志社の教育再建を先導していったかについて、またそこに、アメリカ人女性宣教師が大きな影響を与えていた事実について明らかにする。

本研究は、同志社大学人文科学研究科第2部門研究会「第二次世界大戦後日本の教育再建と日系キリスト教」プログラムの一環として研究を行っているものである。

山中弘次

バプテスト派の教会論、中でも各個教会主義や政教分離といった理念は、戦時下の宗教統制と容易に相容れるものではない。第一次、第二次宗教団体法案への対応、また同法成立後の日本基督教団への加入時に、バプテスト派は大きな葛藤を経験した。バプテスト主義の遵守と、教派存続のための妥協との間で揺れ動くバプテスト派の苦悩を、残された資料から読み解き、社会と教派理念が対立したときの教会のあり方を考える一助としたい。

本間優太

本研究では、パウロ書簡における「アダム」の特徴を記述することを最終的な目的とするものである。第二神殿時代における悪の起源としての「アダム」への言及は、創世記2～3章を仄めかすことがありながらも控えられる傾向があった。むしろ、紀元の代わり目までアダムは肯定的に評価される傾向が強い。このような状況において、パウロ書簡において「初めて」その最も明確で徹底的なアダムへの否定的発言が見られる。この事を考察するにあたり、第二神殿時代のアダムに関する取り扱いを比較しつつ、パウロにおけるアダムの取り扱いの特徴を記述する。

2 部

鍵谷秀之

アドルフ・ユーリヒャーは、イエスによる本来のたとえ話は直喩であり、隠喩は初代教会が創作したものであると主張する。ロバート・ファンクはこれを批判し、直喩としてのたとえ話と、隠喩としてのたとえ話の間には異なる機能があると主張する。アンソニー・シセルトンも、たとえ話には意味が自明なものと曖昧なものとの両者があるとする。しかし、本発表では、直喩としてのたとえ話が存在するという前提に疑義を呈する。確かに聖書には、一文の単位であれば、直喩と考えられる表現もあるが、たとえ話とは一種の物語であるため、意味が自明となることが本質的にありえないと思われるのである。

Asmao Diallo

This paper evaluates the impacts of COVID-19 on women's socio-economic activities in Mali. The COVID-19 crisis, which broke out in China in 2019, became the fastest global pandemic of the century within a year, exceeding public health and socio-economic challenges. Subsequently, sanitary restriction measures were enacted in Mali to contain the spread of the disease. As a result of this confinement, inequalities between the sexes increased. Using data obtained from women's oral accounts, local and international news, reports, and journal articles in rural and urban Mali, the analysis found that the COVID-19 pandemic severely impacted women and girls. This inequality was mostly reflected in the economic and social spheres. Hence, domestic violence and financial dependence of women increased during the pandemic. As resources decrease, women are at an increased risk of abuse due to their economic dependence on their partners. The adverse effects have been dramatic for those locked up with violent spouses leading to physical, mental, and sexual violence. The paper concludes that there is a pressing need to prevent and manage domestic violence and post COVID-19 impact on women's socio-economic activities by establishing a new, more inclusive societal order with gender-sensitive policy responses.

Key words: COVID-19, income generating, social, Mali, Women

以上